

## 18日 火曜

### 使徒

12:1 そのころ、ヘロデ王は、教会の中のある人々を苦しめようとしてその手を伸ばし、  
12:2 ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。  
12:3 それがユダヤ人に喜ばれたのを見て、さらにペテロも捕らえにかかった。それは、種なしパンの祭りの時期であった。  
12:4 ヘロデはペテロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越の祭りの後に、彼を民衆の前に引き出すつもりでいたのである。  
12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていたが、教会は彼のために、熱心な祈りを神にささげていた。  
12:6 ヘロデが彼を引き出そうとしていた日の前夜、ペテロは二本の鎖につながれて、二人の兵士の間で眠っていた。戸口では番兵たちが牢を監視していた。  
12:7 すると見よ。主の使いがそばに立ち、牢の中を光が照らした。御使いはペテロの脇腹を突いて彼を起こし、「急いで立ち上がりなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。  
12:8 御使いは彼に言った。「帯を締めて、履き物をはきなさい。」ペテロがそのとおりにすると、御使いはまた言った。「上着を着て、私について来なさい。」  
12:9 そこでペテロは外に出て、御使いについて行った。彼には御使いがしていることが現実とは思えず、幻を見ているのだと思っていた。  
12:10 彼らが、第一、第二の衛所を通り、町に通じる鉄の門まで来ると、門がひとりでに開いた。彼らは外に出て、一つの通りを進ん



で行った。すると、すぐに御使いは彼から離れた。

12:11 そのとき、ペテロは我に返って言った。「今、本当のことが分かった。主が御使いを遣わして、ヘロデの手から、またユダヤの民のすべてのもくろみから、私を救い出してくださったのだ。」

12:12 それが分かったので、ペテロは、マルコと呼ばれているヨハネの母マリアの家に行った。そこには多くの人々が集まって、祈っていた。

このヘロデは、ヘロデ・アグリッパであって、イエス様誕生時に王であったヘロデ大王の孫にあたります。彼は民衆に迎合する権力者でした。今日でもキリストの反対者にはそのようなタイプの人も多いことでしょう。

またすでにヤコブは殺されていますから、ペテロも教会も相当な緊迫した思いであったと考えられます。しかも総勢16人の屈強な兵士に監視されているのは、絶望的な状況です。そこで主はみわざを起こされました。

ここから学ぶことが色々あります。まずは、主のみわざは祈りの中で進められたということです。教会は主のために苦闘する人のために祈らねばなりません。次に、主は簡単に助けることのできるお方だということです。それも思いもよらなかった方法です。人間的な観測でだめだと諦める必要はありません。さらには、救い出されたということが後でわかったということです。ペテロは「今...分かった...救い出してくださったのだ。」と言っています。このように彼は分からなくても主の導きに従ったのでした。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

